

## 1 はじめに

本学級の児童は、明るく元気で、体を動かす学習が大好きである。図画工作科の授業では、楽しそうに生き生きとした表情で造形活動に取り組んでいる。しかし、就学前と小学校では一日の生活の仕方や遊び方など異なることが多くあり、図画工作科への興味や関心にも個人差を感じることもある。環境の変化や活動への見通しがもちにくいことなど、様々な不安を抱えている児童の様子も見られる。

そこで、研究を進めるにあたり、私自身が、幼稚園での生活や表現活動の内容を知ることから始め、年間指導計画が1年生入門期の児童の実態に沿ったものになっているか見直しを行った。児童が豊かに発想を広げていくためには、図画工作科だけでなく他教科との教科横断的な関連を図り、じっくり活動できるように、時間的ゆとりをもたせる必要があると考えた。学習活動への見通しをもって主体的に取り組む授業づくりに努めるとともに、自分や友達の表現や取組のよさに気付く鑑賞の時間を工夫し、一人一人がつくりだす喜びを味わうことができるよう実践した。

## 2 指導の実際

### (1) 題材1 いろいろな かたちの かみから 〈A表現(2)絵に表す・B鑑賞〉

本題材は、様々な形の紙から想像したことや感じたことを基に表したいものを見付け、クレパを使い自分なりの表し方で楽しく絵に表す活動である。形から想像したことや感じたことを自分の表し方でのびのびと絵に表していく楽しさを味わわせ、自分や友達の作品の表し方のよさや面白さを感じとらせることがねらいである。

①目標 ア いろいろな形の紙を用いて、絵に表すことを楽しむことができる。

イ 紙の形から想像したことや思い付いたことを基に、表したいことを考えることができる。

ウ 形の特徴から思い付いたことを表すために、いろいろ試しながら表し方を工夫することができる。

エ 友達と作品を見せ合ったり、互いの絵の面白いところを話し合ったりして、よさや面白さに気付くことができる。

#### ②指導計画

第1次 お気に入りの紙を見付け、想像したり思い付いたりしたことを楽しみながら絵に表す。

・・・2時間

第2次 もっと楽しい絵になるように、周りに絵をかき、作品の中で気に入っているところを発表し合う。

・・・1時間

第3次 友達と話したり遊んだりしながら、作品について素敵だと感じたところを伝え合う。

・・・1時間

### (2) 題材2 ゆめのまち わくわくワールドへ ようこそ 〈A表現(2)工作に表す・B鑑賞〉

本題材は、空き箱、クラフト紙、色紙、包装紙など、紙製のものを使って住んでみたい家をつくり、グループになって家を並べ、友達と共同して夢の町をつくる活動である。思い付いたことを話し合う時間を十分に取り、友達と対話しながら様々な発想やアイデア、表し方があることに気付かせ、友達と共につくりだす喜びを味わわせることがねらいである。

①目標 ア 住んでみたい家や町をつくったり、遊んだりする活動を楽しむことができる。

イ 遊んだり、想像したりしながら、箱や紙など材料の形や色などを基に、つくりたいものを思い付くことができる。

ウ 箱や紙などを切る、組み合わせる、貼るなど手や体全体を働かせながら、箱の使い方や飾り方を工夫することができる。

エ つくった町で友達や幼稚園児と交流し、話したり遊んだりしながら自分や友達の作品や表現のよさや面白さに気付くことができる。

## ②指導計画

- 第1次 町にはどのようなものがあるか話し合い、自分の住んでみたい家のイメージ図をかく。  
・・・1時間
- 第2次 自分の思いを広げながら、空き箱などの材料を生かし、住んでみたい家や町をつくる。  
・・・5時間
- 第3次 友達と見せ合ったり一緒に遊んだりしながら鑑賞し、工夫していることを伝え合う。  
・・・1時間
- 第4次 幼稚園児と一緒に楽しく遊びながら自分たちの町を紹介し、自分や友達の作品のよさや面白さなど、気付いたことを発表し合う。  
・・・1時間

## 3 結果と考察

### (1) 学習活動への見通しをもち、主体的に取り組む授業づくり

題材全体を見通す学習計画と、本時の学習の流れを示すことで、安心して活動に取り組むことができていた。導入では、児童のわくわく感が高まるような題材との出会いを心がけ、つくる手順の説明を短時間でわかりやすく伝えるために ICT 機器を効果的に使うよう工夫した。また、思い付いたことを発表したりグループで話し合ったりする時間を少しでも取ることで、自分のつくりたいものもイメージをより広げることができていた。

題材2の第1次では、住んでみたい家のイメージ図をかくことで、どんな材料があればよいか考えさせた。「のりやボンドでくっつくものは何かな」と問いかけながら、面白そうな素材を提示し「これも何かに使えそうだね」など、材料集めの視野を広げる工夫をした。家づくりから町づくりに発展していく過程で、表現材料と主体的にかかわる時間を十分に取ることによって、個々の発想がグループの発想に広がり、友達とつくりだす楽しさを味わうことができていた。

### (2) 自分や友達の表現や取組のよさに気付く鑑賞の時間の工夫

題材1では、作品が1枚仕上がる度に「見て見て、こんなのができたよ」「それ、おもしろいね」など様々な形の紙を手に取り何に見えるか友達と話したり、同じグループの友達と笑顔で見せ合ったりと、表現活動の中で友達の表現のよさや面白さを感じながら活動していた。

様々な形の紙から思い付いたことを絵に表した時と、色画用紙に並べたり重ねたりなどした時では見え方が変わる児童もいた。様々な形の紙に絵をかいた後と、色画用紙に貼った後に、それぞれ短時間の鑑賞タイムを設け、作品への思いを伝えることで次の活動での発想が広がり、次時の活動意欲が高まっていく様子が感じられた。

題材2においても、友達と対話しながら楽しんで活動し、振り返りの時間には「次はこうしたい」という思いをもつ児童も増えてきた。第4次では、幼稚園児を招待し、みんなでつくった夢の町で遊びながら、自分や友達の作品の面白いところをたくさん紹介することができた。友達の作品の面白いところを紹介している様子は自分の作品であるかのように、わくわくした表情で一人一人の笑顔が輝いていた。

題材1・2の鑑賞の時間には、友達同士で作品について質問しながら互いに楽しく鑑賞した後、友達の作品のよさを伝え合う「きらきらタイム」の時間を十分に取った。活動の途中で見せ合ったり言葉で伝え合ったりする度に発想が広がり、自信を深めることにもつながっていた。

## 4 おわりに

児童がわくわくしながら、次々に思い付いたことを形に表し、つくりだす楽しさを感じながら、自分の作品のよさが認められる経験を多く重ねていくことが重要ではないかと感じた。児童の興味関心・意欲を高める導入の工夫や、発想の広がりを助ける声かけができるよう、授業の工夫・改善を図っていきたい。そして、幼稚園とのつながりを大切にし、小学校での表現活動がより豊かに広がり深まっていくよう、今後も研究を続けていきたい。